新幹線プレス

2025 年 1 月 15 日 | No.693

発行者 伊 藤 一 也

編集者 教 宣 部

ＪＲ東海労新幹線地本

JS労の熱い闘いに学ぶ

新幹線地本 2025 年新春旗開き開催

１月１１日新富区民館にて新幹線地本2025年新春旗開きを開催しました。

伊藤委員長は年頭所感で「ＪＲ総連や一部ＯＢによる組織破壊策動を絶対に許さない。年休抑制・診断書強要に対する闘いで大きな改善を勝ち取ったことを再確認しよう。リニア建設反対・袴田さんの冤罪を許さない闘いに連帯しよう。組織拡大をめざし職場と出向先で働きかけ・関係づくりを。ＪＳ労や仲間の実践に学ぼう。」と訴えました。

来賓の本部畑野副委員長は「ＯＢ会の解散や規約改正を名目にした新組織など無謀な動きは認められない。新たな闘いではなく職場・地域などでのこれまでの運動をさらに押し広げよう。れいわ山本議員は「あなたも闘いを」と呼びかけている。一人ひとりが闘おう。」と挨拶しました。

続いてＪＳ労柳楽委員長から、新労組結成に至る闘いの経過と現在の課題について講演を受けました。主な内容は以下の通りです。

●2018 年から出向先での労組結成・二重加盟などについて本部・地本で検討してきた。ＪＳ労結成はこれを具体化したもの。●サービックで共に働くおじちゃん・おばちゃんたちのひどい労働環境・労働条件、ＪＲ東海との格差を見て変えたいという思いが出発点。●労災認定や勤務認証への不満など相談を受ける中でＪＲ東海労加入を意思する仲間も出てきた。新組合の結成・二重加盟という道を決断した。●ＪＲ総連は議論不足などとケチツケをしてきが結成までの苦労をまるでわかってない。二重加盟がおかしいという主張は会社・権力と同じ立ち位置だ。●結成後団体交渉を 13 回開催し改善要求が実現し組織拡大も実現している。本社と現場の年間休日の大きな差の改善、労働協約締結などめざしていく。

この講演に対して参加者から●日経連は 1995 年から非正規雇用を進めてきた。そういう中でのＪＳ労結成は大きな意義がある。●新幹線でも関連会社の仲間との議論をつくってきた。支援だけでなく仲間たちの強化を追求する事が大切。●ＪＳ労をつくるまでの苦労がよくわかった。●関連会社で新労組をつくることは何の問題もないことだ。困っている人を助ける。間違いか否かではない。松崎さんは「答えはいらない。前に進むだけだ。」と言っていた。●闘っている人に砂をかけるのは良くない。先輩たちはなんでそうなるのか？！●労災や出勤遅延などを起こした仲間に声かけ相談してきた。世話役活動を越える取り組みが大切。など活発な意見が出されました。

最後に各班から闘う決意表明を受け旗開きは終了しました。